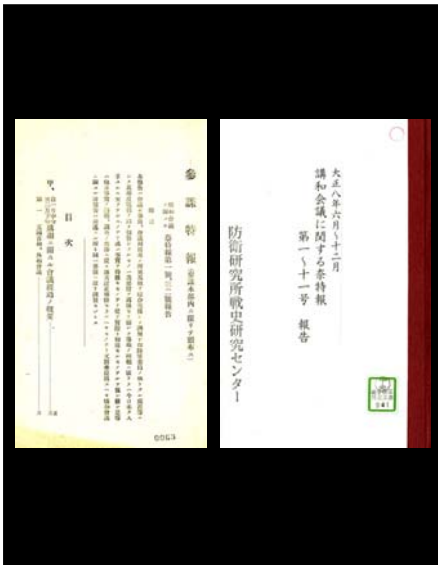


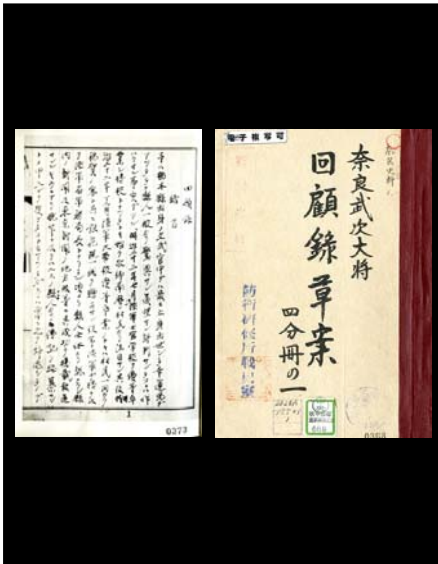
.....「史料紹介コーナー」.....

平成26年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 ^{なら たけじ} 奈良 武次 1868～1957年 》
 一 栃木県出身の陸軍大将



講和会議に関する奈特報 (登録番号：中央-戦争指導外交文書-241)
 奈良武次大将は、明治22年7月、陸軍士官学校(旧11期)を卒業後、支那駐屯軍司令官、軍務局長、侍従武官長などの要職を歴任しました。この史料は、大正8年2月、第一次世界大戦後のパリ講和会議に陸軍随員として派遣された奈良中将が、帰国後の大正8年11月、陸軍大臣田中義一大将に報告した「復命書」(登録番号：中央-戦争指導外交文書-244)の別冊「講和会議に関する奈特報」です。この史料には、講和会議の経過及び主要議事並びに陸軍関係会議議事の概要を陸軍大臣に報告した文書、いわゆる「奈特報」(第1号報告～第11号報告)を綴った「講和会議二関スル奈特報」と「講和全権委員陸軍随員発受電報集」が収録されています。「対独講和条約」(ヴェルサイユ条約)は、大正8年6月28日に調印され、各国の批准を経て、翌年1月10日に発効しました。



奈良武次大将 回顧録草案 (登録番号：中央-戦争指導重要国策文書-689～692)
 講和会議より帰国後の大正9年7月、東宮武官長に任命された奈良中将は、皇太子の初のヨーロッパ訪問(大正10年3月から同年9月まで)に随行しています。引き続き大正11年11月から昭和8年4月まで侍従武官長を務めた奈良大将(大正13年8月に大将に進級)は、皇太子時代も含めると、ほぼ13年間にわたり昭和天皇を補佐したことになります。史料は、この時代の日記などを中心に奈良自身がまとめた「奈良武次大将 回顧録草案」で、「晩年無職ノ余暇此回顧録ヲ認メルコトトシ(中略)大体年月日ヲ追フテ記述」したものです。4分冊からなるこの「回顧録草案」は、奈良大将が89歳で死去する前年の昭和31年5月までの記録がまとめられています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
 防衛研究所企画部企画調整課
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>